

# 令和2年度病虫害発生予察情報 発生予報第4号

令和2年7月17日  
発表：福島県病虫害防除所

普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全 域	平年並	平年並	①7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場割合は、平年より低かった(－)。 ②BLASTAM において感染好適条件が7～10日間隔で出現している(+) ③天候予報(7月9日発表1か月予報)によると、降水量は平年より多いと予想されている(+) ④育苗箱施薬の普及により、菌密度が低く維持されている(－)。	①上位葉に病斑が見られる場合は、薬剤防除を実施して、穂への感染を防ぐ。 ②今後日照不足や多雨が続くような場合は、発生が多くなるため注意する。
	紋 枯 病	全 域	平年並	やや多い	①前年の発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+) ②天候予報によると、向こう1か月の気温が高く降水量は多いと予想されている(+)	①過剰な窒素施用や、過繁茂を避ける。 ②水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する(防除情報参照)。 ③前年に発生が見られたほ場では本年の発生に注意する。
	稲こうじ病	全 域	平年並	やや多い	天候予報によると、向こう1か月の降水量は多いと予想されている(+)	銅を含む薬剤の使用は出穂10日前までとし、葉が濡れている場合は葉害が出やすいので注意する。
	斑点米カメムシ類	全 域	平年並	やや多い	①6月下旬の畦畔雑草のすくい取り調査では、発生地点割合は平年より高かった(+) ②天候予報によると、8月の気温はやや高いと予想されている(+)	①散布剤による本田防除は、乳熟期(出穂期の7～10日後)を基本とし、その後も発生が多い場合は、7日おきに追加防除を行う。 ②発生の多いほ場が一部で見られるので出穂期の早いほ場では特に注意する。 ③割れ粳の発生しやすい品種では、カスミカメ類による加害が助長されるため注意する。(注意報第5号参照)
	イネツトムシ	全 域	平年並	平年並	①粘着トラップによる誘殺は、平年並の7月から開始された。 ②7月上旬の発生状況は平年並だった(±)	窒素の多用や直播栽培、葉色の濃い品種で発生しやすいので注意する。

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
大豆	紫斑病	全域	—	平年並	①近年、被害粒率は低く推移している(—)。 ②天候予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多いと予想されている(+)	開花期の20～40日後に薬剤防除を実施する。
	べと病	全域	—	やや多い	天候予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多いと予想されている(+)	①薬剤を散布する場合は、発生初期から7～10日おき位に使用する。 ②本病の発生には品種間差があるため、発生しやすい品種を作付している場合は注意する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。